安全・安心科学技術プロジェクトの概要

資料２－１

【背　景】

○第３期科学技術基本計画においては、「社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術」が基本姿勢とされ、安全・安心など社会的課題の解決のために科学技術が貢献することが求められている。

○相次ぐ大規模自然災害やテロ・犯罪の頻発など、社会・国民の安全・安心に対する脅威が高まっている。

【施策の必要性】

○大学・研究機関等の研究開発の成果を、イノベーションを通じて従来の経済的価値の創出だけではなく、安全・安心への貢献など社会的価値の創出につなげ、科学技術の成果の還元を実現する。

○多岐にわたる公的機関や民間事業者において、先進的な科学技術の成果が積極的に導入され、より効果的な安全・安心の維持・確保に貢献する。

【課　　題】

○危機事態への対応機関（ニーズ側）

抱える技術的課題の解決に対して、有効な科学技術シーズに関する情報を入手することが困難

⇒　先端的な科学技術の活用が十分ではない

○研究開発の現場（シーズ側）

科学技術シーズを安全・安心な社会の実現のために用いる具体的な方法についての見通しが乏しい

⇒　多様な科学技術の成果を活かし、ニーズに的確に対応した効果的・効率的な研究開発の推進が十分ではない

【施策の内容】

○研究開発課題の抽出・分析・ニーズとシーズのマッチング

・国内外のリスク動向、安全・安心科学技術に関する研究開発動向、公的機関等のニーズ情報、大学・研究機関等のシーズ情報を収集・分析し、取り組むべき研究開発課題及びプライオリティを具体化する。（安全・安心科学技術に関する研究開発戦略）

・情報収集・分析の結果を踏まえて情報発信、政策提言、技術的助言、人材育成・交流等を行う。

○研究開発の推進の具体化

ユーザーやメーカー等が参画した研究開発チームを構成するなど、研究開発の成果を結びつけるための研究開発体制を構築する。

安全・安心科学技術プロジェクト実施体制（イメージ）

安全･安心科学技術推進機能

文部科学省　安全・安心科学技術企画室

■具体的機能

○国内外のリスク動向、安全・安心科学技術に関する研究開発動向、公的機関等のニーズ情報、大学・研究機関等のシーズ情報を収集・分析

○取り組むべき研究開発課題及びプライオリティを具体化

○情報収集・分析の結果を踏まえて情報発信、政策提言、技術的助言、人材育成・交流等を行う。

■実施分野

- テロリズム（生物剤、化学剤、爆発物、核物質、放射性物質）
- 各種犯罪（画像認識・処理技術、ネットワーク技術）
- 大規模自然災害
- 重大事故
- 新興・再興感染症
- 食品安全問題
- 情報セキュリティー
- 社会システムの脆弱性

※分野の専門性を踏まえて適切な機関において実施

安全・安心科学技術の研究開発

ユーザーニーズに的確に対応した、効果的･効率的な研究開発の推進

○研究開発の企画段階からのユーザーの参画
○先端的技術シーズの最大限の活用
○技術の統合化、システム開発
○人文・社会科学との協働（社会への導入方法、安全性評価）

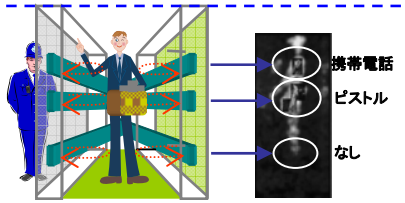
ユーザーの参画の下での技術評価（プルーフ･オブ･コンセプト）、試作機の導入

【研究開発課題】

○安全･安心科学技術国際イニシアティブ共同研究

○有害危険物現場検知技術
○社会防犯力増強技術
・・・

競争的資金制度の活用により実施



（社会的価値）
安全･安心な社会への貢献

平成１９年度新規要求
概算要求額調整中

【安全・安心科学技術推進機能】

総合科学技術会議「安全に資する科学技術推進戦略」を受けた文科省としての積極的な取組
■効果的な研究開発体制の構築　■安全に関わる知・技術の共有化　等

情報収集

○リスク動向・ニーズ情報

・安全・安心を脅かす社会リスクの分析・抽出
（例：テロに用いられる技術の動向）
・国民の安全・安心な社会に対するニーズ情報
・危機対応機関等の現場におけるニーズ情報

○科学技術シーズ情報

・大学や研究機関、民間企業が持つ技術シーズ情報
・リスク対策に関する国内外の研究開発動向、技術レベルに関する情報

○科学技術政策動向

・安全・安心な社会構築のための研究開発の推進のしくみの調査

分析

取り組むべき優先的事項の具体化

○研究開発

・リスクの評価と優先順位付け、現在の対策技術の評価結果を踏まえた研究開発
・将来の安全・安心につながる研究開発

⇒安全・安心科学技術戦略
（cf. 総合科学技術会議　セキュリティー・イノベーションに関するロードマップへの貢献）

○科学技術政策

・研究開発の推進体制、国際標準や調達・知的財産問題など、国際競争力の観点も含めた総合的科学技術政策

ニーズとシーズのマッチング

【”場“の提供】

○シンポジウム・ワークショップ等の開催
○ファンディング機関等とのミーティングの設定

【情報の提供】

○ニーズ情報、シーズ情報の積極的な公開・広報

○情報発信

対象
- 一般国民
- 危機対応機関
- 技術シーズ機関
- 人材育成を担う機関

○コンサルティング
（政策提言、技術的助言　等）

ファンディングへの貢献

○ニーズに応える研究開発

○システム化・統合化
（企業の技術力の活用）

○技術評価のフィードバック